日野病院
病院長コラム

第81回

胆のうポリープと胆のうがん
―小さいときはみんなかわいく見えてしまう

日野病院 病院長　孝田　雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

正しく知ろう 胆のうポリープの種類

みなさんは人間ドックや通常の診察で、腹部超音波検査を受けられたことがあると思います。その中で「胆のうにポリープがありますよ」と言われた人も多いのではないでしょうか。胆のうポリープと聞いてドキッとした人、何だ！ポリープかと思った人、どちらの人も、正しく胆のうポリープを知ってもらいたいと思います。

胆のうポリープはよくみられる疾患ですが、胆のうポリープと言われているものは、実はコレステロールポリープ、炎症性ポリープ、過形成ポリープ、腺腫性ポリープ、初期の胆のうがんが混じっています。コレステロールポリープが9割を占めますが、怖いのは初期の胆のうがんである小さい胆のうがんが混じっていることです。

コレステロールポリープ、炎症性、過形成ポリープは良性ですので心配はありませんが、腺腫性ポリープは中にがんができることがあるので、腺腫性ポリープと初期の胆のうがんが重要です。典型的な形をしたコレステロールポリープであれば超音波検査で区別がつきますが、区別の難しい例も多く、確実な診断は困難です。

胆のうがんは小さくても油断しないで

ではどうすればいいでしょう。それは定期的に大きさをチェックすることです。良性の3つのポリープは、大きさが10㎜を超えることはほとんどありません。つまり、大きさが10㎜を超えれば胆のうがん、悪性の可能性が極めて高くなります。

胆のうがんは小さいときはかわいい顔をしていても、少しずつ大きくなり本性を現します。私の外来では、初めて胆のうポリープと診断したとき、大きさが6㎜以下であれば6カ月後に、6～9㎜であれば3カ月後に超音波検査を再度行います。10㎜以上のポリープはがんを疑って、MRI検査、超音波内視鏡検査を行っていきます。6㎜以下であったポリープが徐々に大きくなって10㎜以上になった時も同じように精密検査を行い、15㎜を超えた場合は基本的に手術で胆のうを切除します。

実際にこれまでたくさんの胆のうポリープの患者さんを見てきましたが、6㎜以下から8㎜、13㎜、16㎜と徐々に大きくなり、手術をしたらポリープの半分くらいがんであった例がありました。もちろん、早期に治療できたのでその後再発はありませんでした。

胆のうポリープと言われたら、必ず主治医の先生の指示に従って定期的な超音波検査を受けてください。多くの場合、数年経過を見て、大きくならなければがんの可能性は極めて低くなります。それでも、年に一回はチェックをすることをおすすめします。

胆のうは壁が非常に薄い袋状の臓器ですので、がんができるとすぐに周囲に浸潤、転移するため、大変予後が悪い病気です。しかし、日ごろから検査を受ければ決して怖い病気ではありません。

胆のうポリープは一般的な疾患ですが、中にはがんの可能性もあります。そのため、定期的な超音波検査を受けて大きさや形をチェックすることが重要です。超音波検査は簡単で安全な検査ですので、胆のうポリープと診断された人は必ず主治医の指示に従ってください。